

メタボ関連がん

前立腺がん

前立腺がん県内死亡率、全国ワースト1位 「PSA採血」で早期発見・早期治療を

佐賀県の前立腺がんの死亡率は、全国ワースト1位(国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」)です。泌尿器科医を中心に構成する「佐賀県前立腺がん検診協議会」で検診受診率を高めるために活動する佐賀大学理事で副学長の野口満同大附属病院長に、前立腺がんについて聞きました。

生殖機能に大切な役割を果たす前立腺

前立腺は男性だけに存在する臓器で、ぼうこうの下にあり、真ん中に尿道が通っています。前立腺がなくても生命に影響を及ぼすことはありませんが、精液を妊娠しやすいような状態にするなど、前立腺は生殖機能に重要な役割を果たしています。そのため、前立腺は骨盤の奥深く守られた場所にあります。



生存率を下げるメタボと肥満

前立腺がんの発症リスクの一つは、メタボリックシンドローム(メタボ)です。メタボ、すなわち高血圧、糖尿病、中性脂肪高値や肥満によって発がんにつながるものが分かっています。



またメタボの人は、がんの進行が早く、悪性度も高くなります。さらに前立腺がんで治療を受けた人を追跡調査したら、メタボの人は治療中や治療後、がんが進行しない「無増悪期間」が短く、生存率も悪くなるというデータがあります。つまりメタボの改善はがんの発症のみならず進行、悪化をも抑えることにつながります。

気付かないうちに進行・転移

前立腺がんは、浸潤や転移がなければほとんど症状がありません。また、乳がんのように自分で触れて分かるような場所にはないので、例えば下半身まひになって検査をしたら、実は前立腺がんの転移によるものだった、ということもあります。がんが進行して症状が出て、始めて病院を受診する人が多いのが現状です。

死亡率を確実に下げるためにも検診を

県内で前立腺がんの死亡率が

男性のがん罹患数の順位(2019年)	
1位	前立腺がん
2位	大腸がん
3位	胃がん
4位	肺がん
5位	肝臓がん

国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」

前立腺がん都道府県別年齢調整死亡率[佐賀県](2020年)	
ワースト1位	

国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」

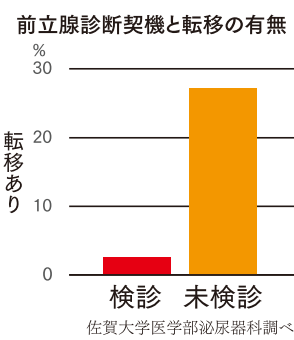
高いのは、がんが転移したり進行してから発見されることが多いことも一因ですが、前立腺がんの検診を受けていない人が多いのも理由の一つです。死亡率を下げるには早期発見・早期治療が大事です。そのためにはやはり検診は不可欠です。

前立腺がんの検診は、血液を採取する「PSA(前立腺特異抗原)検査」を行います。PSAとは前立腺から分泌される物質で、血液中のPSAの数値が高い場合、前立腺がんが疑われます。疑いがあった場合、泌尿器科専門医による精密検査へと進みます。

前立腺がんは、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんの「5大がん」に指定されていないため、企業や一般の健診に前立腺がん検査の項目が入っていないことが稀です。現在、日本人男性のがん罹患率第一位は前立腺がんです。さらに、佐賀県の前立腺がんの死亡率は、全国第一位です。がんを早く見つけることがで

など体に負担が少ない治療が可能で、その診療体制が佐賀には整っています。早期治療すれば、ほかのがんに比べ予後も非常に良いです。

佐賀県では、前立腺がん検診を各市町で助成しています。市町によつて金額は異なりますが、例えば佐賀市では自己負担500円で



検診を受けることができます。前立腺がんの発症は、50歳後半から急増します。50歳になったころを目安に、ぜひ前立腺がん検査を受けてください。若い方々もご自分のお父様やお身内の方に前立腺がん検診を受けていただくよう勧めてください。実施医療機関などの詳細は、居住している市町に問い合わせてください。

佐賀大学医学部附属病院院長 野口 満 先生



笑顔につながる明日を、共に。



アヅヴィは米国に本社を置く、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業です。日本においては主に、免疫疾患、肝疾患、精神・神経疾患、がん、アイケアの領域、さらに美容医療関連のアラガン・エステティックスのポートフォリオで、製品の開発と提供に取り組んでいます。

アヅヴィ合同会社
〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目1番21号
msb Tamachi 田町ステーションタワーS
<https://www.abbvie.co.jp/>

